

東京都 スポーツ推進委員だより

第136号

(一社) 東京都スポーツ推進委員協議会

2025年 9月 19日

編集: 情報委員会

ご挨拶



新島 二三彦 会長挨拶～任期の後半を迎えて～



猛暑日が続いているですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。熱中症予防対策をしっかり行って、厳しい季節を乗り越えていきたいものです。

任期の後半となる今年もこれまでと同様に、スポーツ

推進委員の皆様の参考となる情報提供や研修会を実施していきます。以下2点、情報提供です。

1点目は、東京都から今年3月に発表された「東京都スポーツ推進総合計画」(2025年度～2030年度)です。この計画では、「ウェルビーイング」を「スポーツを通じて幸福感や満足感を高めるための重要な概念」としてとらえており、生涯にわたって自分に合ったスポーツを楽しみ、スポーツを通じて互いに理解を深めることなどを目指しています。また、スポーツの楽しみ

方として、「する」「みる」「支える」に加えて「応援する」という要素を新たに追加し、スポーツとの多様な関わりを推進していくことや、デジタル技術を活用し、バーチャルランやeスポーツのほか高齢者や障害者の健康促進も明記されました。地域のスポーツを進めていくためにも確認しておきたい計画です。

2点目は、関東スポーツ推進委員研究大会(東京大会)です。日程は令和9年6月11日(金)・12日(土)、会場は府中市のご協力により「府中の森芸術劇場」で開催します。内容等については今年度から検討を始め、来年度に実行委員会を立ち上げて進めていきます。その際は改めてご協力をお願いすることになります。

任期後半も東京都のスポーツ推進に微力を尽くしてまいりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

会長 新島 二三彦

社員総会



令和7年度 第1回社員総会

令和7年5月24日(土)14時30分、文京区民センターにて定刻通り、第1回社員総会が実施されました。

まず新島会長より、冒頭のご挨拶として以下の三つの情報提供がありました。

- ① 東京都スポーツ推進総合計画について
- ② MEKIMEKI体操について
- ③ 関東スポーツ推進委員研究大会(東京大会)について

上記①～③に関して現在の進捗状況など示され、情報共有と共に今後想定される準備などについて説明がありました。

次に、定足数の確認がなされ(出席47名、委任状10名 合計57名)、続いて議長の選任および議事録署名人の確認が行われました。

同総会における議事は、以下の通りです。

(1) 報告事項

・第1号議案(令和6年度事業報告)

令和6年度に実施された各事業に関して、配布資料に基づき荒川企画総務委員長より詳細な説明がありました。

・第2号議案(令和6年度収支決算報告)

令和6年度の収支決算報告に関して、配布資料に基づき山本財務担当より、詳細な説明がありました。

・監査報告

令和6年度収支決算報告に引き続いて、濱谷監事より、①事業報告等の監査結果②計算書類及びその付属明細書、財産目録の監査結果について、いずれも適正に示しており、理事の職務の執行に関する不正行為または法令もしくは定款に違反する事実がなかった旨、報告がありました。

・その他

参加された社員より、以下の点について質問があり、執行部が適宜回答しました。

- ・収支決算報告書のダイジェスト版と内訳（詳細）版に関して、勘定科目（備考欄含む）などを統一すべき

（回答）適宜修正

・本社員総会の開催日が通常の日程と異なっている

（回答）会場利用の都合によるもの

・貸借対照表が添付されていない

（回答）過去には添付し報告していたが、内容的に難しいとの意見があり、今回は報告せず

（2）閉会の辞

岡田副会長によって閉会の辞が述べられ、15 時 30 分に散会しました。



社員総会に続き、東京都 功労者表彰、永年勤続表彰の授与式が行われました。

○永年勤続者表彰（4名） 敬称略

稻城市	石井 初枝	22年10ヶ月
羽村市	吉江 友秋	32年
	田村 芳雄	30年
	加藤 正美	26年

○功労者表彰（36名） 敬称略

千代田区	叶 雄
中央区	金子 拓弥、福島 秀夫
目黒区	島谷 広之
世田谷区	安藤 嘉茂
足立区	高松 恵
江戸川区	下口 真寿美、今井 美和、石井 良一
八王子市	青木 純
青梅市	三角 和則、野村 欣史、荒井 早苗
府中市	元山 薫、古口 時治、鈴木 英俊、 濱田 輝之
調布市	井幡 明男
小金井市	加藤 淳子、藤井 隆之
小平市	石橋 正春、佐藤 友子
日野市	真崎 祐介、木戸場 美和、下笠 悅子



功労者表彰、永年勤続表彰の皆様

国立市	五十嵐 治、森西 智子
東大和市	石川 美穂子
多摩市	庄司 武彦、村松 新一郎
瑞穂町	原 幸子、小山 宏
日の出町	佐々木 教裕、横田 宏嗣
奥多摩町	小峰 將史、大野 まどか

記事 斎藤 利之 情報委員会（東久留米市）

写真 中根 宏行 情報委員会（江戸川区）

研修会



基礎研修会（旧 初任者講習会）

令和 7 年 5 月 17 日(土)13 時 30 分より、文京区民センターで基礎研修会が行われました。

この研修会は、昨年度までは任期 3 年までの方を対象に「初任者講習会」として開催していました。しかし、初任者以外も参加できるようにとの要望が多く寄せられ、今年度から「基礎研修会」と名称を改め、対象の年数を撤廃することとしました。

その結果、参加者は 34 名で、半数以上がスボ推歴 4 年以上の参加者となりました。主催はリーダー講習会の修了者で構成される「リーダー委員会」。今回の開催に向けて毎月実行委員会を開き、講義台本のパワーポイントの作成やリハーサルを重ねてきました。講師もリーダー委員会のメンバーが担当しました。

講義の内容は以下の通りです。

- ① スポーツ推進委員の制度（講師：吉田 典正/中野区）
- ② スポーツ推進委員の組織（講師：田代 典子/墨田区）
- ③ 生涯スポーツの推進とスポーツ推進委員（講師：平林 実/葛飾区）
- ④ リスクマネジメント（講師：多田 若恵/日野市）
- ⑤ スポーツ推進委員の資質向上（講師：中島 由美子/品川区）

講義は「スポーツ推進委員ハンドブック」を主にパワーポイントも活用して進められました。スポーツ推進委員としての基礎知識、役割・資質、法的位置づけなどについて細かく説明されました。特に法律が変わったことによって求められることになった「コーディネーターの役割」として必要な資質の向上については、経年者にとっても再確認となる内容であり、中でもリスクマネジメントについては参加者の関心が高く、「身が引き締まる想いだった」との声が多く聞かれました。

その後のディスカッションでは、5 人一組で「5 年未満を 5 チーム、5 年以上を 2 チーム」に分け、コーディネーターと発表役を決めるところからスタートしました。

グループ内で「①自己紹介②本日の感想③自分が目指すスポーツ推進委員」の 3 点が和気あいあいとディスカッションされ、最後に各グループの発表役がそれぞれ際立った意見などを全体に発表しました。今回、対象の経験年数の制限を撤廃したことから、継続年数が長い参加者の発言が偏らないようグループ作りにも工夫がされて

おり、積極的で対等な意見交換がなされていたのが印象的でした。

開講にあたり松田副会長から次のような挨拶がありました。「スポーツ推進委員に求められることは多岐に渡り、任期の長い方々にもブラッシュアップしていただきたいと今回対象を広げて開催致しました。講師を務めるのはスポーツ推進委員でリーダー養成講習会を受講した皆さんです。研修を行うにあたり、多くの時間を費やし、ご準備いただきました。厚く御礼申し上げます。」

松田副会長からの言葉は、リーダー委員会のメンバーにとって大きな励みとなり、来年度開催の力になったことは間違いないありません。



記事 渡邊 ひろこ リーダー委員会・情報委員会
(武蔵野市)

写真 横山 哲也 リーダー委員会(墨田区)

研修会



関東スポーツ推進委員研究大会 山梨大会



令和7年6月27日(金)・28日(土)の両日「スポーツと文化の融合」の大会テーマのもと、山梨県甲府市の小瀬スポーツ公園 武道館アリーナをメイン会場として、令和7年度関東スポーツ推進委員研究大会 山梨大会が開催されました。1都8県から2,000人近くのスポーツ推進委員が参加しました。

1日目は開会式に先立ち実技披露として大会テーマを表現されたスコップ(サフロ)三味線の演奏が北杜市スポーツ推進委員協議会の皆さんによる歓迎アトラクションとして行われました。開会式のあと、表彰式が行われ、都スプ協関係者も多数受賞されました。

基調講演1. は「天災を天恵に変えた長所、進展の教育」と題し、学校法人日本航空学園 理事長梅澤重雄様にご登壇いただきました。昨年の能登半島地震で被災した石川県の被害状況や自身のスポーツ歴を踏まえ、40年前から体罰はあってはならないもの、スポーツを楽しくやろう！との考えに至ったとのこと。その中で大切にするものとして、①コミュニケーション、②礼儀・マナー、③自由と規律と安全、特に①の点については1つ間違うと言葉の暴力になりかねないともお話しされていました。

基調講演2. は「健やかな子どもを育む」と題し、国立大学法人山梨大学 学長 中村 和彦様にご登壇いただきました。長年、教育学・発育発達学を専門とされており、NHK教育テレビ内の幼児向け番組の体操のコーナーなども担当されていたこともあり、演題にあるように、何が大事なのかご講

演いただきました。スポーツの語源、国内におけるスポーツの考え方などについてお話しされました。その中で基調講演1. と重なる部分がありましたのでご紹介します。

①学ぶ力、②コミュニケーション、③体力のうち、②については一例として【あいさつが出来ない】とのこと。どの場面に置いてもコミュニケーションは大切な道具なのだと感じました。

パネルディスカッションは「地域を繋ぎ 地域を活かし 地域を元気に」をテーマにファシリテーターに元全国スポーツ推進連合専務理事 園山 和夫様、パネリストに全国スポーツ推進委員連合リーダー養成講習会参加者10名により、それぞれの経験などをお話しいただきました。パネリストとなった10名が同じ時期に受講しているという状況ではなく、コロナ前、コロナ禍中、コロナ後、それぞれ状況の違う中での受講となったことで、そこから見えてくる課題点などお話をいただきました。

2日目は今までに例を見ない分科会でした。県内を6つの分科会に分かれて、それぞれのテーマについて学んできました。

第1分科会 神秘の溪と祈りの道 日本遺産御岳昇仙峡を奥深く

第2分科会 世界農業遺産をどうスポーツツーリズムにつなげるか

第3分科会 ノーベル賞受賞の大村博士と金メダリスト文田選手を育んだふるさとの風土を五感に感じて過ごす

第4分科会 身延山の麓、四季折々の花公園で散策してみませんか

第5分科会 今行きたい絶景！富士山・忠霊塔とミステリー散策

第6分科会 戦国武将武田信玄の治水事業『信玄堤』散策と、フルーツ王国やまなし、南アルプス市フルーツ狩り

開催された2日間、35度を超える中で対応していただいた山梨県のスポーツ推進委員の皆さんに感謝を申し上げます。来年度は栃木県宇都宮市を中心を開催されます。

<関東スポーツ推進委員協議会功労者受賞者の皆さん>



勝俣 朝子
(墨田区)



平野 秀夫
(江戸川区)



正親 和代
(羽村市)



大竹 ひとみ
(府中市)



塚田 明美
(三鷹市)



才郷 正次
(東大和市)



西村 元
(瑞穂町)



森本 敏幸
(国立市)



記事 江上 郁子 情報委員会（北区）
写真 長谷川 恵二 情報委員会（昭島市）

研修会



ニュースポーツ研修会

令和 7 年 6 月 7 日（土）14 時より、墨田区曳舟小学校体育館にて、102名が参加して二つのテーマで研修会が行われました。

新島会長の挨拶のあと、一つ目のテーマである「MEKIMEKI 体操～カラダうごかせ！ニッポン！～」の講義を、日本郵政株式会社スポーツ＆コミュニケーション部 担当部長 松井 伸介様から講義していただきました。この体操はスポーツ実施率の向上を目的に、「おかあさんといっしょ」で体操のお兄さんをされた佐藤 弘道氏（医学博士）が監修され、健康づくりに必要な要素【有酸素】【柔軟】【筋力】に【リラックス】を取り入れた構成となっています。運動に苦手意識のある人が笑顔で出来るように、アイスブレイクとしての効果もあり、日常生活への定着化・習慣化を期待できるとのお話をしました。その後、一般社団法人アナウンス発声協会 EACO 理事長 常世 晶子（とこよ しょうこ）様から体操の実演を受け、映像を見ながら実際に体操を行いました。参加者の年齢や身体状況によって、動きを調整しても良いとのアドバイスもいただきました。



二つ目のテーマは「スクエアボッチャ」で、中央区スポーツ推進委員協議会 岡田 浩一副会長・小林 敦子副

会長・遠藤 陽子委員からルールや試合の流れについての解説がありました。「スクエアボッチャ」は、京都市障害者スポーツ協会によって、より多くの人が同時に楽しめるように、「ボッチャ」をベースにアレンジされた競技です。

- ・9m四方のコートで、4辺の内側2mのところにジャックボール無効エリアのライン（内側のスクエア）
- ・4チームによる対抗戦で、最大24名で競技可能
- ・それぞれ赤・青・緑・黄色のボールを決め、ジャックボールとの距離に関係なく、順番に投入
- ・ジャックボールが内側のスクエアから出てしまった際には、中央のクロス・マークの位置に戻される
- ・ボッチャと異なり、エンドの途中でジャックボールにボールが触れるたびに、ボーナスポイントとして1点が追加

実技では20チームに分かれ、ゲーム体験を（審判体験も）行い、大いに盛り上りました。緑や黄色のボールがない場合、赤や青のボールに緑や黄色のシールを貼って代用が可能とのことでした。近年はたくさんの地域でボッチャが普及し、スクエアボッチャへの関心が高く、多くの質問が飛び交い、とても実りある研修会でした。

記事　　國崎 由実子　情報委員会（葛飾区）
写真　　加来 剛　　情報委員会（豊島区）

<< MEKIMEKI 体操について >>

MEKIMEKI 体操については、今年 1 月に東京都を通じて日本郵政株式会社より紹介のアプローチがあり、事前に都スプ協理事会に対して内容をご説明いただきました。

その後、都スプ協として、6 月に実施されたニュースポーツ研修会の準備体操や、会長会でのグループワーク前の時間を活用し、皆様に体操を紹介・体験していただく機会を設けました。

この体操は、リズムや動きなどを考慮し、いきなり開始するのではなく準備運動と整理運動を取り入れること、特に高齢者や運動習慣のない方は低強度・短時間から始めるのが安全と感じられます。

アレンジ次第ではさまざまな場面で活用できる可能性があり、導入にあたっては対象に応じた検討や確認をしていただくと、より効果的に取り入れられるかと思います。

今後の活用については、各地区の実情に応じた工夫や判断に期待しております。今回ご紹介した MEKIMEKI 体操を、ぜひ前向きにご活用いただければと思います。



会長会



会長会

令和7年6月15日（日）13時30分より、令和7年度東京都スポーツ推進委員協議会会長会が各地区会長の参加のもと、文京区民センターにおいて開催されました。

会長会に先立って新島会長より、「『東京都スポーツ推進計画』（令和7年3月）のもとに、本会テーマの討議で課題を共有していきたい。」との挨拶がありました。

続いて、東京都スポーツ推進本部スポーツ総合推進部 地域スポーツ振興担当課長 大河原 丈晴様より、「『東京都スポーツ推進総合計画』をふまえ、都スボ協及び推進委員の皆さんと連携し、共催の研修会を通して皆様の活動を支援していくとともに、今後とも引き続きご協力をお願いします。」とのご挨拶をいただきました。

来賓及び都スボ協の役員紹介の後、各区市町村会長の自己紹介がありました。さらに、3件の情報提供がありました。

- ① 広域地区別研修会の会計に関する注意事項について～事務局
- ② 全国スポーツ推進委員連合定時総会報告～新島会長
- ③ 東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業（2件）の募集～岡田副会長

第1部：MEKIMEKI 体操の紹介

1.日本郵政株式会社スポーツ＆コミュニケーション部 担当部長 松井 伸介様

- ・みんなが笑顔になれる体操、苦手意識のある方も取り組める体操をめざすもの
- ・MEKIMEKI 体操センター 出射 由佳(いでの ゆか)様による実演で各会長も体験
- 2. ラジオ体操～かんぽ生命株式会社コーポレートコミュニケーション部 ラジオ体操推進 担当課長 井花 圭裕様
- ・コロナ禍のタイミングで、ラジオ体操が見直されている。



第2部：「スポーツ推進委員の選任方法(現状と課題)」

第2部では、8グループ A：千代田区・新宿区・中野区・江戸川区・小金井市・清瀬市、B：中央区・文京区・杉並区・八王子市・小平市・東久留米市、C：港区・墨田区・豊島区・立川市・日野市・武蔵村山市、D：江東区・北区・三鷹市・東村山市・稲城市、E：品川区・荒川区・武蔵野市・国分寺市・羽村市、F：目黒区・練馬区・府中市・国立市・西東京市、G：世田谷区・足立区・昭島市・狛江市・瑞穂市、H：渋谷区・葛飾区・町田市・東大和市・日の出町 に分かれて、意見交換が行われました。



各グループ内で、参考資料（「令和5年度スポーツ推進委員に関する実態調査報告書」：令和6年3月生活文化スポーツ局）をもとに、選任方法、定年制度導入状況、委嘱方法を中心にグループ討議がなされました。一般公募が増える傾向にあり、定年制度の導入は25%となっているのが現状です。また、グループ討議からのまとめの報告からは、欠員が多い・出席率の確保・大学生の採用（2・3年の2年間の制約）・高齢化が止まらない・平日動ける委員が少ない等の切実な課題が出されました。200名のスポーツセンター制を持つ地区もあり、各地区の様々な課題を共有する貴重な情報交換の場となりました。

記事 島貴 金雄 情報委員会（国分寺市）
写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）

各地区の情報 

情 報 ひ ろ ば

【台東区】霧ヶ峰合宿で「スポーツ×コミュニケーション」を学ぶ

台東区では、長野県霧ヶ峰高原にある台東区少年自然の家「霧ヶ峰学園」で、令和7年6月に研修を実施しました。体育館での研修では、プロ講師としても活躍する委員を迎えて、「ボールを使ったコミュニケーション」をテーマに、実践を交えながら学びを深めました。

スポーツにおけるコミュニケーションは、単なる会話ではなく、動きやタイミング、意図の伝え方などが含まれます。例えば、向かい合ったペアが同時にボールを投げ合う際、無言で成功させるにはどうすればよいか？タイミングをどう合わせるか？ 姿勢や動きで意思を伝える工夫を体感し、スポーツの奥深さを実感しました。

委員一人ひとりが主体的に参加し、意見交換や気づきを重ねながら、区民への運動推進に必要な「伝える力」「受け取る力」を養いました。何かの競技をするだけではなく、大人も子どもも楽しめる、「テーマを学ぶ」スポーツの時間は、委員にとって非常に貴重な機会となりました。



今後も、学びを活かしながら、地域の運動促進やスポーツ文化の醸成に努めていきます。

台東区スポーツ推進委員
石井 美紀

【品川区】

品川区では17地区から構成された4つの地域スポーツクラブが運営されています。

この4つの地域スポーツクラブに現在33名いるスポーツ推進委員を協力者として派遣し、運営をサポートしていることが特色の1つです。それぞれの地域の皆さんのが楽しめるフリースポーツ、教室、交流大会を地域スポーツクラブと協力して進めています。

品川区スポーツ推進委員会の主体的な活動としては、毎年11月に2種目でスポーツ推進委員会杯スポーツ大会（9人制混合ソフトバレーボール大会、ソフトバレーボール大会）を開催しています。この大会は今年度で57回を迎える歴史ある大会で、審判からチームとしての参



加まで、大会運営と活動を楽しんでいます。

その他の活動としては、区と連携し、いきいきウォーキング、ユニバーサルスポーツフェスタ、ボッチャ SHINAGAWA CUP、地域スポーツクラブ交流事業といった様々な事業の企画運営も行っています。

また、事業運営だけではなく「東京2025 デフリンピック」に向けても、聴覚障害への理解を深めることを目的に手話やデフサッカーの研修を行っています。

これからも品川区スポーツ推進委員会は「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」をモットーに、身近な地域でスポーツを楽しめる事業展開を進めています。



品川区スポーツ推進委員会
副会長 増田 智恵

【福生市】

福生市スポーツ推進委員は、現在 12 名で活動しています。

スポーツ推進課と一緒に、年に3回程度、ウォーキング事業を行っています。令和7年1月11日に行った新春ウォーキングでは、市内の石川酒造をルートに入れ、希望される方は酒蔵見学や試飲もできるプランでウォーキングを実施しました。参加される方に楽しんでいただけるよう、毎年、市内外のコースを考えています。

10月には、「健康まつり」でボッチャの体験を実施しています。小さなお子さんから高齢の方まで、幅広い世代の方が来場し、楽しくボッチャを体験していただけています。

また、令和7年度は福生市・羽村市・瑞穂町で行う二市一町交流会の幹事が福生市で、令和7年5月に実施しました。スポーツ推進委員で考えたルールのブラインドボッチャで交流を行い、二市一町の親睦を深めました。

今後も、市民のスポーツ推進に繋がるよう、活動を続けていきたいと思います。



福生市スポーツ推進委員

【武蔵野市】

武蔵野市のスポーツ推進委員は、市内の公立小学校を地区として、31名が活動しています。2013年のスポーツ祭東京の開催をきっかけに、障害者スポーツにも力を入れ、障害者スポーツ指導員（パラスポーツ指導員）の資格の取得やボッチャなどの障害者スポーツの研修をして、市民の方にボッチャの体験会などを行ってきました。

また、年に1回開かれるスポーツ推進委員が企画し開催するファミリースポーツフェアというスポーツイベントにもボッチャを取り入れ、障害者、高齢者など、だれもが参加できる種目を取り入れたイベントを企画してきました。「市民がスポーツをするきっかけになってほしい」ことを目的とするこのイベントでは、幼児から高齢者、障害者などすべての市民が参加できる21種目を揃えました。陸上競技場では8種目、モルック、ラグビー、ミニサッカー、走ってみよう50mなど。体育館では13種目、テニス、バドミントン、エアー遊具、玉入れ、スポーツリバーシなど。

今年は、新たに多摩障害者スポーツセンターの協力のもと、車いすバスケットボール、競技用車いす体験、卓上カーリングを種目に追加しました。

市民の方から、ボッチャやニュースポーツなどやってみたいとの声があれば、その地区まで出向いていきます。

まずはいろいろなスポーツを体験して、自分が生涯続けられるスポーツを見つけていただけることを、私達は願っています。



武蔵野市スポーツ推進委員

里見 民恵

各地区の情報 

各地区アンケート報告（第1回）

【アンケート報告】第1回：スポーツ推進委員の体制に関する現状分析

選出方法、そして人口比との関係という5つの視点から現状を考察してみました。

1. 定年制度【「なし」が主流、年齢制限を設ける地区も】
スポーツ推進委員の定年は、「定年なし」とする地区が多数を占める一方で、江東区（70歳）や台東区（65歳）など、明確な年齢制限を設けている地区もあります。
定年を設けることで若手層の登用が促される反面、継続的な担い手の確保が課題になる可能性も考えられます。

2. 男女比【全体的には男性がやや多い傾向】
全体的には男性委員が多いものの、女性委員の割合が拮抗、または上回る地区も一部存在します。たとえば、「狛江市（男4名：女8名）」や「中央区（男16名：女15名）」など、女性の積極的な参画が見られる地区もあります。

3. 委員数と定員【多くの地区で定員割れが顕著】
多くの地区において、委員数が定員を下回っており、特に以下の地区では大きな差が見られました。
板橋区：58名／70名
練馬区：17名／40名
杉並区：19名／50名
一方、中野区、調布市、新宿区、日野市、国分寺市、国立市、福生市、東大和市、武蔵村山市、奥多摩町、新島村、神津島村は、定員を満たしており、安定した体制が築かれています。

4. 選出方法【地区ごとに大きく異なる】
選出方法は地区ごとに大きなばらつきがあり、公募・地域団体推薦・自薦他薦の併用など多様な形が見られました。
選出方法については、各地区にて事情や特色もあると思われ、委員数の確保において一定の影響があると考えられます。

5. 人口とのバランス【委員数不足が課題の地区も】
人口に対する委員数に明確な基準はないものの、定員を満たしていれば一定の充足が認められます。
しかし、練馬区（約76万人に対して17名）のように、東京都平均（令和5年時点での人口約1,426万人に対しスポーツ推進委員は1,492名、人口10万人あたり約10名）を大きく下回る地区は、推進委員の役割にもよりますが、地域住民との関わりが希薄になるため、活動の偏りが懸念されます。

★前述の【アンケート報告】を元に、令和7年度会長会でのグループワークでも議論された「選出方法」を切り口として、「委員の充足率」の分析を行ってみました。

◆ 充足率が高い地区の選出方法の特徴【制度・基準が明確】

地域 充足率 選出方法の特徴

調布市 100% 小学校から各1名＋研究会1名

⇒制度整備型

新宿区 100% 特別出張所ごと＋公募

⇒地域バランス重視

日野市 100% 公募＋委員間推薦

⇒柔軟運用

国立市 100% 地域組織や大学等からの推薦

⇒多元的選出

東大和市 100% 明確な決まりはないが充足

⇒地域の連携が鍵か

◆ 充足率が低い地区の選出方法の特徴【選出元が限定的】

地域 充足率 選出方法の傾向

練馬区 43% スポーツ団体推薦のみ⇒候補母体が限定的

杉並区 38% 公募のみ⇒周知不足の可能性

港区 45% 一元的推薦⇒柔軟性が不足

墨田区 61% 協議会からのみ推薦⇒偏りが課題

※ 例外：中野区（充足率100%、公募のみ）

中野区のように公募制のみでも委員が定員を満たしている地区もあり、これはその地区での認知度の高さ、広報力や募集中体制の強さが背景にあると考えられます。

【総評：制度設計と柔軟性のバランスがカギ】

今回のアンケート結果からは、選出方法の明確さ、多様性、地域組織との連携が委員の充足率に影響を及ぼしていると推測できるのではないでしょうか。特に公募と推薦の併用や、地域に根ざした制度設計を行っている地区ほど、充足率が高くなる傾向にあるように思われます。

今回のこの報告記事が、各地区における柔軟で戦略的な制度運用を推進し、より安定したスポーツ推進体制の構築の一助となれば幸いです。

さて、次回の【アンケート報告】第2回では、各地区における「推しニュースポーツ」についての結果を報告いたします。いろいろな種目が登場します、どうぞお楽しみに！

記事 長谷川 恵二 情報委員会（昭島市）

#####
#####

【編集後記】

今年度最初の東京都スポーツ推進委員だよりをお送りします。

今号より、「各地区の情報」として、各地区の活動状況の報告と皆様にご協力をいただきましたアンケート結果について掲載してまいります。楽しみにお読みいただくとともに、活動状況の報告については記事掲載へのご協力をお願ひいたします。

さて、今秋は、世界陸上とデフリンピックが東京で開催されます。例年とは異なるスポーツの秋となるのではないかと期待感でいっぱいの方がが多いのではないでしょうか。私自身、スポーツを通して広がる人の輪を非常に楽しみしております。今号の編集にあたり、ご協力いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

今年度もよろしくお願ひいたします。

編集 中根 宏行 情報委員会（江戸川区）

#####
#####